

桂川・相模川流域協議会会報誌

あじえんだ



2018.3
第40号

流域協議会 20年のあゆみ
第23回流域シンポジウム
相模川交流授業・青根～茅ヶ崎
シリーズ流域の課題 永遠のごみ問題②
流域ウォーキング 西桂町を巡る

「あじえんだ113」は、行動計画・指針を意味する単語 agenda に山中湖から相模湾までの主流路113キロの数字を組み合わせたものです。



流域の一滴の水は、母なるせせらぎに。



この20年間、ずいぶん色々なことがありました。行政としては正式には「相模川」でしたが、私たちが取り組んでいくこの流域を源流から河口まで通して表現するのに「桂川・相模川」と定着していくのにもそれなりの時間が必要でした。

流域協議会が立ち上がったからも、基本理念の策定、そして「アジェンダ21 桂川・相模川」を具体的に実行できる内容までに作り上げていく作業にも、幹事会、専門部会、そのための専門部会担当幹事会議と、議論に多くの時間が費やされてきています。

4年に及ぶ「アジェンダ21 桂川・相模川」改訂版発行までのこの議論こそが、流域協議会の足腰を強くし、流域協議会の現在を保証してきているのです。

1992年のリオにおける「環境と開発に関する国連会議」(地球サミット)が背景にあることは勿論です。

～多くの思いが集まって～ 桂川・相模川流域協議会は始まった。

桂川・相模川流域

地名は発足当時

桂川の一滴も下流にて合流し海に注ぐ
自分の存在も一滴、
交流を深め活動を続けたい

森は疑いなく緑のダムであり、
ブナはその主役にふさわしい。
ブナは水が好き、水なしには生きられない。
人間は彼らの恵みの一部を
分けてもらわなければ生きていけない。

桂川の上流に住んでいる私たちは
下流の皆さんのことを思いやって、
きれいな水、美しい流域にしたい

相模川の植生の保全
カワラノギクを中心

いつでも安心して川辺で戯れる川
取った魚を安心して食せる川
せせらぎの音で心の安らぎを与えてくれる川
自然との共生、持続可能な開発との
調和のとれた川

生きものに満ちた
豊かな相模川を目指して



山中湖



母の白滝 (富士河口湖町)



新名庄川 (忍野村)

1992年～1998年

桂川・相模川流域協議会設立への経緯

- 1992年 6月 「環境と開発に関する国連会議」開催 in リオデジャネイロ
- 1992年 11月 「山梨県・神奈川県水質保全連絡会議」を設置
- 1995年 1月 桂川・相模川の水質保全を図るため、山梨、神奈川両県間で共同してできる事業について検討を開始
- 1995年 8月 「桂川・相模川流域環境保全行動推進事業」を実施することについて合意
- 1995年 11月 「桂川・相模川流域環境保全行動推進事業実行委員会」を設置
 - 市民ネットワークづくり (1996年度)
 - 「流域環境行政連絡会議」「流域協議会」の設置合意
 - 行動指針「アジェンダ21 桂川・相模川」の検討
- 1997年 2月 「桂川・相模川アジェンダ21市民シンポジウム」開催
- 1997年 3月 「第1回桂川・相模川流域サミット」開催「桂川・相模川環境宣言」を採択
- 1997年 6月 河川法改正(※これまでの治水・利水に環境が加えられた)
- 1998年 1月 「桂川・相模川流域協議会」設立。「アジェンダ21 桂川・相模川」策定



左/1995年9月6日
右/1997年2月23日
神奈川新聞より

*第1回流域シンポジウム
桂川・相模川流域の交流と連携の序章
1996年3月16日
大月市民会館

*第2回流域シンポジウム
上下流からの発信
1996年11月23日
富士五湖文化センター

*流域サミット
県境を越えて取り組む桂川・相模川の流域環境保全について
1997年3月26日
相模原市けやき会館

*第3回流域シンポジウム
流域環境保全プログラムの発信
1998年2月14日
海老名市文化会館



鐘山の滝 (富士吉田市)



めがね橋 (西桂町)



神鈴の滝 (西桂町)

1998

1999

2000

2001

1998年10月 「桂川・東部地域協議会」発足
1998年12月 会報誌「あじえんだ113」創刊号発行 (年2回発行)



2000年～ クリーンキャンペーン事業
2000年～ コイを指標に環境ホルモン調査 (~2001年度まで)
2000年～ 上下流交流事業
2000年4月 「相模川湘南地域協議会」発足
2001年4月 「活動報告」創刊 (以後、年1回発行)
2001年4月 公式ホームページ開設



相模川のカワラノギク保全活動

1999年7月 桂川・相模川ツアー&ウォッチを実施 (~2011年度まで)
1999年7月 「相模川・桂川の流況について」完成 (※当時の建設省京浜工事事務所が中心となり、専門部会としてまとめられた。)
1999年9月 あじえんだ21 桂川・相模川「基本理念」策定

*第4回流域シンポジウム
桂川・相模川を美しくするために
～流域のゴミ問題～
1999年3月7日
相模原市けやき会館

*第5回流域シンポジウム
桂川・相模川の水をきれいにするために
～石けんと合成洗剤を例として～
2000年3月5日
都留市文化会館

*第6回流域シンポジウム
清く豊かに川は流れる
～飲み水から桂川・相模川流域を考える～
2000年11月3日
寒川町民センター

*第7回流域シンポジウム
相模湖を知ろう・遊ぼう・体験しよう
2001年11月18日
相模湖交流センター



田原の滝 (都留市)



湧水の壁 (都留市)



梅花藻群落 (都留市)

2002

2003

2004

2005

2002年3月 「アジェンダ21 桂川・相模川」改訂版発行
2002年～ 「流域のホタル分布調査」 (~2003年度まで)
2004年～ 「シジミ共同調査」 (~2006年度まで)
2004年～ 「流域データベース事業 (日本大学糸長研究室との協働)」 (~2011年度まで)

2004年7月 「相模川よこはま地域協議会」発足 (現在、休会中)
2005年 「桂川・相模川さがみ地域協議会」発足
2005年～ 「身近な水環境全国一斉調査」に参加 (以後、年1回実施中)



松茸山紀行/桂川・相模川さがみ地域協議会

*第8回流域シンポジウム
森・川・海との新たな交流・連携
～市民参加による流域の森づくりと上下流交流の促進～
2002年12月8日 大月市民会館

*第9回流域シンポジウム
蛇口の向こうの森を考えよう
～飲み水はどこからどこへ～
2003年11月8日
横浜市情報文化センター

*第10回流域シンポジウム
豊かな水の恵みを後世に
～富士から始まる循環型社会～
2004年11月27日
山梨県郡内地場産業センター

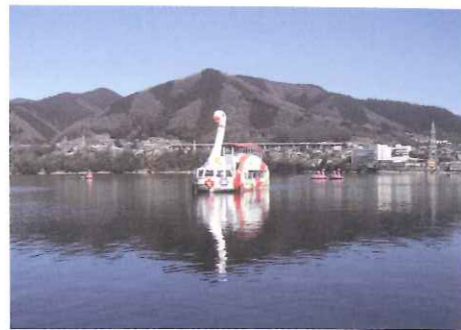
*第11回流域シンポジウム
桂川・相模川の未来を創ろう
2005年11月5日
サン・エールさがみはら



猿橋 (大月市)



桂川橋 (上野原市)

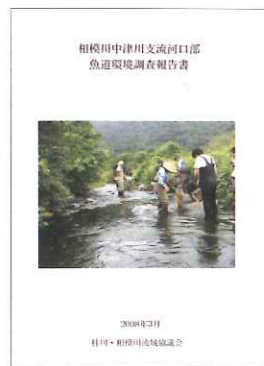


相模湖

2006 2007 2008 2009

2006年～ 相模川支流合流点の横断工物調査/魚道環境調査 (～2007年度まで)
 2006年10月 湘南野鳥図鑑発行
 2007年度～ 相模川河川整備計画策定にアジェンダ専門部会として取り組む

2008年～ 田んぼの生き物調査 (～2010年度まで)
 2009年3月 桂川・相模川流域協議会10周年記念「流域マップ」発行



*第12回流域シンポジウム
 桂川・相模川水系一水源地からの警告
 ～誰が私たちの飲み水を守るのか～
 2006年11月12日
 上野原文化ホール

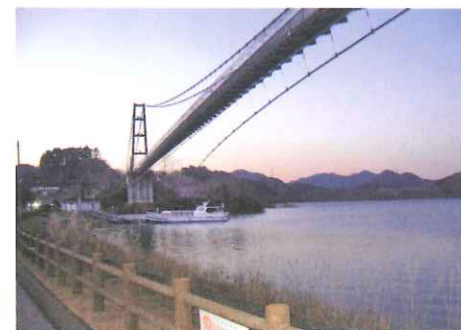
*第13回流域シンポジウム
 桂川・相模川からのメッセージ
 ～水質と農薬のかかわり～
 2007年11月23日
 愛川町文化会館

*第14回流域シンポジウム
 変わりゆく富士山
 ～桂川・相模川の源～
 2008年11月8日
 勝山ふれあいセンター

*第15回流域シンポジウム
 都会を支える水源林の未来
 ～流域材の活用～
 2009年11月21日
 神奈川中小企業センター



水源の森 (道志村)



宮ヶ瀬湖



望地河原 (相模原市)

2010 2011 2012 2013

2010年 シナダレスズメガヤ生息場所調査 (～2011年度まで)
 2011年 田んぼの生きもの調査
 アメリカザリガニ調査 (～2013年度まで)

2012年～ 流域ウォーキング (年2回実施中)
 2013年～ 相模川支流溪流の生態系回復事業実施 (実施中)



座間の湧水



深城ダム

*第16回流域シンポジウム
 川はだれのものか
 2010年9月25日・26日
 厚木市相模川三川合流地点

*第17回流域シンポジウム
 いのちをつなごう
 ～最上流部で暮らす生きものたち～
 2011年11月5日
 忍野村生涯学習センター

*第18回流域シンポジウム
 川の声聞こようよ
 ～桂川～相模川～
 2012年11月24日
 相模女子大学

*第19回流域シンポジウム
 富士山から相模湾へ水は巡る
 ～紅葉の山中湖シンポジウム～
 2013年10月26日
 山中湖村公民館



相模大堰



茅ヶ崎港



相模湾

2014 2015 2016 2017

2014年12月 「アメリカザリガニものがたり」
発行

2015年4月 桂川源流域協議会発足
2015年~ 流域の地下水・湧水調査（実施中）



桂川源流域協議会



*第20回流域シンポジウム
夢枕獯さんの面白い川の話と
川の自然の楽しみ方
2014年12月7日
寒川町民センター

*第21回流域シンポジウム
桂川から相模川へ 清く豊かに川は流れる
～森は海の恋人～
2015年12月6日
大月市民会館

*第22回流域シンポジウム
守ろう、つなごう かつら川・さがみ川の豊かな
自然
2016年11月27日
ソレイユさがみ

*第23回流域シンポジウム
いのちの源・水を守ろう
～桂川・相模川の里山と川のあしたを考える～
2017年12月17日
都留文科大学



間伐材の活用 木質バイオマス生産施設 熱エネルギーとしてのペレット

●富士吉田市外二ヶ村恩賜県有財産保護組合

本組合の木質バイオマス生産施設は、組合管理地の森林資源を利用した伐採・搬出・加工等の燃料化システムを基盤とする、地域循環型木質バイオマスエネルギー利用体系の構築を目的とし、平成27年4月から稼働しています。

本組合の管理地8,152haには、およそカラマツ214,800㎡、アカマツ190,900㎡、シラベ・ウラジロモミ44,400㎡、スギ・ヒノキ5,000㎡、その他針葉樹2,700㎡、広葉樹39,300㎡の森林資源が蓄積されています。



この組合管理地から生み出される森林資源を適正に利用することは、森林が持つ本来の機能を発揮させ、山地災害の防止や水資源の保全など、地域の安全な生活基盤を確保することにつながります。また、温室効果ガスの吸収による温暖化防止や生物多様性の保全といった地球規模の環境問題の改善や、豊かな自然にふれあう場を提供することによる住民福祉の向上にも貢献します。

従来の森林施業においては製材に適した主伐材の利用が主であり、多くの未利用材が発生していました。本組合ではこの未利用材に着目し、森林資源を余すことなく利用する手段のひとつとして木質バイオマスのエネルギー化に取り組んでいます。木質バイオマスエネルギーは、化石燃料とは異なる持続可能な社会の構築に不可欠な再生可能エネルギーの一つです。

これから富士北麓地域の住民とともに、エネルギーの生産から消費までを地域でまかなう「エネルギーの地産地消」を軸とした循環型システムを構築することは、持続可能な社会の実現に寄与す



るだけでなく、先祖から引き継いだ豊かな資源や美しい自然環境を未来に引き継いでいくための手段であり、古くから森とともに生きてきたこの地における新しい森との共存方法であると考えます。

本組合ではこのような理念のもとに管理地内の主な構成樹種であるカラマツ、アカマツ及びシラベ・ウラジロモミの間伐材等未利用材を原料として木質ペレットを生産し、主にストーブ用燃料として本組合の構成市村である富士吉田市、山中湖村及び忍野村の公共施設、小中学校や一般家庭で利用されています。



場所：富士吉田市上吉田 5605 番地 3

いのちの源 水を守ろう

桂川・相模川の里山と川をあしたを考える

■日時：2017年12月17日(日) ■主催：桂川・相模川流域協議会
 ■場所：都留文科大学2号館101教室 ■共催：都留市
 報告者●清水絹代/桂川・東部地域協議会

今回は、桂川・相模川流域協議会設立から20年の節目のシンポジウムでした。午前中に神奈川県参加者が柄杓流川(三つ峠山が源流)のゴミ清掃活動と梅花藻の湧水地見学をしました。アトラクションは、都留文科大学マンドリンクラブの繊細で美しい音色の演奏を楽しんでいただき、ロビーでは神奈川県と都留市(富士の湧水)の水道水の飲み比べを実施しました。

第一部基調講演は、山梨大学・風間ふたば教授が取り組んでいるネパールカトマンズの歴史を踏まえた、水環境についての講演でした。

第二部事例報告は桂川流域の河川関係「ミライ・桂川」「上野原をきれいにしよう会(UKK)」、森林関係「NPO法人森の蘇り」「南都留森林組合」の皆さんから貴重な事例報告がありました。



会場全体



マンドリンクラブ演奏



清掃活動

第1部 基調講演

「あらためて水」ネパールカトマンズでのプロジェクト経験から見えること

講師：風間ふたば教授
 山梨大学国際流域環境研究センター長



JICAの国際支援事業の一環で、発展途上国ネパールカトマンズの水環境支援プロジェクト経験から見えた、ネパールの不安定な政治による厳しい水環境の報告。

長い王政の影響と周辺国(インド・中国)の複雑な影響がある。民主化(2006年)が安定せず、水面下のカースト制度で貧富の差が大きい。賄賂が横行し国際支援金が必要なインフラ整備に使われず、また人口の激増もあり水環境対応が間に合わず、日本では想像できない程整備が遅れている。

ヒマラヤからの水はカトマンズ盆地の外を流れ、水力発電所が少ない(財源が無い)ため、時間制限の電気供給でポンプが作動せず水供給・経済発展にも影響している。一日の供給量は、需要量

の半分にも満たない90L/人(日本300L/人)。富裕層は井戸を掘り水タンクを持ち水業者(水タンカー)から購入できるが、貧困層は生活用水の確保が困難な状況にある。また、水源の川や井戸・共同水場は、下水道整備がないため生活排水の浸透により汚染され、疫病による死者も多い。

ネパール国民の自立力をつける水管理の技術指導で少しずつ成果が出ている。

講師の「日本のきれいな水道水は、ホッと水環境にある幸せを感じる。空気・水があることがありがたいと感じられるのは社会が安定しているから」の言葉は「あらためて水」のテーマの意味の深さを感じるとともに、恵まれた水環境にいる我々の意識への問いかけでもある。

桂川のヤマメに魅せられた フライフィッシャーマンのころみ ミライ・桂川●細川 功氏



西桂町が始めた桂川の清掃活動に参加したことをきっかけに、桂川のヤマメ釣り愛好者(県外)仲間で「ミライ・桂川」を立ち上げ、行政・他団体との協働で始めた清掃活動。今後、住民の意識改革を目指して、桂川全流域で活動予定。

続ける、繋げる、 UKKの活動

上野原をきれいにしよう会●守屋 武氏



「住む地域をきれいにしたい」の思いの有志で、市内の景観地整備や河川敷の清掃を毎月一度実施。雨天でも実施。他団体・学生との連携を広げた活動。会員の高齢化が課題。

森の保全と森の恵みを 活かす《きらめ樹(皮むき間伐)》 NPO法人森の蘇り●上鶴 恵子氏



子どもから高齢者まで、誰でも楽しみながらできる「皮むき間伐」による、民有林の再生活動。木材の製品化につなげる一貫した活動。作業改革による女性の林業従事者が拡大。

里山の課題とこれから 南都留森林組合●武田 仙比古氏



荒廃林の機能低下(水源涵養・生物多様性等)の再生に取り組む。未来につながる森づくりのために、森林教育事業等、地域に密着しながら森林資源の新たな活用で林業を創造。

ロビー展示

- ・一般社団法人 JEAN
- ・金目川水系流域ネットワーク
- ・つみかごの会
- ・NPO法人森の蘇り
- ・桂川・東部、桂川源流地域協議会
- ・相模川湘南地域協議会
- ・山梨県
- ・神奈川県

まとめ

基調講演では、恵まれた水環境の私たちにあらためて水について考える多くの情報をいただいた。事例報告では、桂川流域が抱えている課題への、地道でしかし確実な取り組み内容であり、官だけでは解決できないさまざまな課題に対して、民の主体的活動や官との協働による課題解決の在り方を考える情報共有となった。

設立からの20年を振り返ると、設立当初には想像できなかった多くの課題が発生し、それらへの様々な取り組みがされてきた。しかし、河川のゴミは捨てる人間がいる限りなくなる。「いのちの源の水」にもっと関心を持ち「ごみを捨てない・捨てさせない」ために流域自治体と協働での啓発と実践活動が重要である。また、森林荒廃の深刻な現状に対し、国・自治体・民が財源、人材不足の課題を克服し、「森里川海」の水循環を次世代に繋ぐために、計画的・戦略的に再生事業を進める必要がある。今後、流域協議会がなすべき活動を改めて検討する時期になったことを認識し、次世代へつなげる活動を続けていきたい。

現地
ルポ

永遠のごみ問題

②

● 倉橋 満知子 / 市民会員

● 市村 里江 / 市民会員

● 日向 治子 / 市民会員

流域協議会が発足したところ、20年前、ごみ問題は最悪な状態であった。相模川の河川敷は不法投棄の車がそこらじゅうに廃棄されていた。今ではそれらが一扫されて視界に入ってくることはなくなってきた。さぞかし美しい河原になっているのだろうか、確認することにして、相模原市、相模川中流域の昭和橋から下流、座間市、座架依橋までの河原を歩いてみました。



昭和橋グラウンドの防波堤に早速ごみの山、ごみ拾いの後の収集物のように思われる。しかし、どうしてここまで捨てに来るのだろうかと首をかしげたくなる。こどもの三輪車、電化製品、布団、等々、量的には多いとまでは言えないが、粗大ごみで持ち込んでも少額で済む量と思うが、どこから運んで来たのかわからないが、ここまで運んでくる方が大変なのではと思ってしまう。

次に足を運んだ場所は支流の八瀬川河口部分。水はきれいだが、両側の蛇かごで作られた河川敷にプラスチックごみが巻き付いている。そこをカワセミがピューーと鳴いて飛んでいった。



そして本流の河原を歩いてみると、秋の台風の大水が引いた時に流れてきたごみが、水位の位置に白い花のように草木にひっかかっている。ごみの花である。ほとんどがビニールの破片である。気にならなくなって始めるとすぐにはいっぱいになり、エンドレスである。しかし、この無数のプラスチックごみが海を漂うマイクロプラスチックとなっていくのだろうか。短い目視のなかで、支流からの流入ごみが本流のごみの花の元と言えるようである。(倉橋)



又、河原から一步離れて、相模川の河岸段丘の上段になる新磯野地域は一面畑だったところが、バブル期ごろから周辺のごみ捨て場となり、産廃工場が塀を越えるほどのごみの山を集め、稼働しています。その周囲には道路へはみ出んばかりのごみの一時保管場や、捨てられたごみの山の上に草が生え木が茂り小山をなしている所、ごみを包み込んで林のようになってしまった畑地などなど、一度ごみが集まってしまった所は、行政が出て警察が出てもなかなかどうにかなるものではない。【ごみのごみを呼ぶ】悲しいかな、この構図はゆるぎないようです。(市村)



さて、流域上流桂川では富士山の伏流水が湧き出る山梨県都留市夏狩地区。平成の名水100選にも選ばれている湧水の壁はとても感動的な景観を見せている。・・・が、水が流れる沢に目をやると、そこには生活ごみが散乱し、石の間にも挟み込まれている。このごみはどこから来るのだろうか。沢の上に人家は少なく、水田があるはずである。毎年、流域協議会では、地元東桂中学校の生徒と清掃活動をしてきた。清掃後も雨が降ると再びごみの沢となる。「ごみは上流からやってくる。」と地域の人たちは言う。

それでは・・・と、湧水の壁の上にとどのよう流れ込んでいくのか、辿って見ることにした。沢の上の方は、人がすぐそばまで行ってごみを投げ込むような場所は見受けられない。田んぼや畑がある。そこには桂川から取水している農業用水路が流れている。用水路に沿って上っていくと高速道路の側道があり、その付近から人家が多くなる。用水路は人家の間を流れてき



ている。用水路の中にごみが溜まっているわけではない。再び用水路に沿って下り、水路がどこにつながつているかを辿ってみた。最後の田んぼの先はどうなっているのか。田んぼの脇を降りてみたら・・・なんと、そのまま山肌水路は開放されていた。その先は生活ごみが散乱していた。

これだ！これが雨に流されて湧水の沢に流れ込んでくるのだ。原因の一つはわかった。もう一つの原因は、住民の意識だと考えられる。地域の方から「水路にごみを捨てるのはこの地域の文化だ。」という言葉聞いた。この2つの課題をこれからどう取り組んでいくか。市民だけではなく行政との連携も必要になってくるだろう。(日向)



桂川・相模川流域ウォーキング

第12回 富士を仰ぎ「山の心・水の心のあるまち」いきいき 西桂町を巡る

報告者 ● 中門 吉松 / 市民会員

平成30年1月19日(金) 参加者26名。三つ峠山の麓、桂川や支流・山麓から湧き出す豊富な湧水を利用してきた人々の暮らし、江戸時代より郡内(山梨県東部の桂川流域をさす地方名)を代表する産業として展開してきた織物産業の町が西桂町の特徴である。「織物業」は現代でも町の主要な特産物であり、新しい時代に対応した種々の織物や商品(傘・ネクタイ・マフラー・ストールなど)が機業(イタギョウ)としての伝統と技術を繋いでいる。町域を流れる清流は清冽(せいれつ)だった。

② 三つ峠山麓の柄杓流川源流

甲斐国史には源流として「三つ峠山谷の溪水相集め下りて山足に至り」、名称由来は「河口湖の南岸筒口で柄杓を流しければ伏流し湧出の水に流れ出しと云故」と記載がある。他の伝承では名称由来を「湖に神職が笏(しゃく)を落とした」との説もある。清らかな源流は三つ峠登山道沿いにあり、斜面のあちこちから湧出した水が注いでいるのを見ることができる。車道はきれいに整備されて四季折々に楽しめる桜や紅葉が植えられている。車道が終わって「達磨石(だるまいし)」(標高950m)からは険しい登山道となる。



柄杓流川から望む三つ峠



神鈴の滝遊歩道

達磨石



柄杓流川源流の沢



③ 「傘」榎田商店



資料を説明される榎田社長



二重ばりの傘

織機工場の見学

慶応二年(1866)創業の織物屋さんがつくる傘。榎田商店では社長を始め社員の皆さまに温かく迎えて頂き「蛙ばりと呼ばれる二重ばりの傘」を造る丁寧な手作業と匠の技、蒐集された貴重な資料、近代的な織機が織りなす芸術的な機織りを見学し、気品溢れる甲州織り生地で作られた傘に目を奪われた。毎年恒例の大バーゲン(6月第一の土・日曜)が開催されます。是非、訪れて商品に触れてみては如何でしょうか。

④ 河岸段丘からの湧水群と川の景観

西桂町域では段丘から湧出する豊富な湧水が桂川に流入し、溶岩流をけずりながら奔流となって美しい急流河川を形成している。しかし、耕地や住宅地を流れる用水路から生活ゴミが流入し、大雨などの増水で河川敷や岩場にゴミが溜り一部景観を損ねている。



桂川から引かれた用水路

岩の上に溜ったゴミ



溶岩流の上を流れる桂川

① 十五日正月とサイノカミ

富士山麓地域では小正月を祝う祭りに合わせ、のぼり旗(サイノカミ)が各地域の出入口(各地域の境)に小正月の期間立てられ、「ヒイチ」(三角形の袋状に縫い合わせた布飾りで「火打」が転じたと言われる)などで飾られている。「ヒイチ」は各家の玄関に一年飾られ小正月の「どんど焼き」で正月飾りなどととも焚きあげられる。



⑤ 「ミライ桂川」が桂川の清掃

桂川に通うアングラー(趣味で釣りをする人)さんが「ミライ桂川」を立ち上げ「湧水が豊富で世界遺産の富士山が顔を出す素敵な川、そんな桂川のゴミを無くしたい」と活動を始めました。平成29年11月(第1回)の活動では桂川・東部地域協議会も協力してゴミ拾いしました。桂川公園上流では川底からの湧水に生息する「梅花藻(ばいかも)」を見ることができます。



桂川公園上流の梅花藻

【参加者の感想】

西桂町は山では至る所に湧水があり、町には川の流れる音が響き渡る澄んだ空気のでした。そしてその川に引かかる多くのビニールごみは、川の流れる美しい程に衝撃的でした。傘工場では見事な傘に皆で溜息! 1866年から歴史を辿り、ここにしかないものを確立してきた会社の横顔に魅せられました。 ● 市村 里江 / 市民会員・相模原市



●梶 文/あらいそECOクラブ

2017年秋から山登りを始めた。きっかけは、焼き鳥屋での女子会に頼もしい山ガールがいたから。トロふわレバーを賞味しながら山の話に盛り上がり、メの鶏そぼろご飯に鶏ガラスープをかけてる頃には私の山デビューの日11月9日が決まっていた。乾杯。

翌週「好日山荘」(ステキなネーミングですね)でトレッキングシューズを買い、その翌週にはリュックを買った。遭難しても見つけやすい赤にした。

いきなりの登山には不安があり、慣らしに11月3日津久井城山へ。登山口は何箇所もあるが、利便さから駐車場のある津久井湖畔まで車で行くのを選ぶ。11月7日町田八王子を跨ぐ草戸山へも車でスタートを選んだ。



山は、上りがあれば下りがある。車を利用すると車のある場所に戻る必要があるから同じルートでの往復になりがちだ。頂上に着いた後同じ道を下るのはなんだかもったいない。反対側の景色を味わいたい。幸いこの2つの山行はスタートとゴールが同じ場所ながら、上り下り異なるルートを歩くことができたが。

さて、約束の11月9日丹沢山系人気の鍋割山へ。この日は電車バス。自由です。ルートを途中で変更して下山口を変えることも可能だ。実際テンポ良いペースで登れたので分岐で相談して予定外の塔ノ岳まで足を伸ばした。登りきった山頂から青空の富士山に直面し、連なる山並みに涙ぐんでしまう。塔ノ岳から縦走、鍋割山山頂では名物鍋焼きうどん(絶品??)に元気をもらい下山は清廉な沢を伝って歩く。歩く。

エコロジーという時代の要請、エコカーも増えたが、個別交通に頼らず公共交通機関の利用を選択したいところだ。ましてや自然の恩恵を享受して幸せになる登山の時からい。



11月16日、日向山へ。伊勢原駅よりバスで登山口の日向薬師へ。大山に向かうバスもこの駅より出ていてそちらは登山者数に合わせ本数も多いようだ。丹沢大山フリーパスなるものもあり、この日はしっかり利用した。下山後の地ビール(さがみビールはすごく美味しい!)というオマケも付いた。

山に寄せる関心事の1つに「登山道の整備」もある。実際歩いてみて驚嘆した。整備なくして入山は許されないだろう。その歴史や影響などこれから調べてみたい。

川の記憶を訪ねて(15) ●小島 瓊禮/愛川町在住 琉球大学名誉教授

鮭がのぼる 相模川

江戸時代には、相模川も鮭が遡上する川だったのでないかと思いたくなる記録がある。江戸幕府が編纂した地誌「新編相模国風土記稿」(一八四一年成立)の高座郡新田宿村(現座間市)の条である。この村の鎮守の諏訪社の拝殿に、「鮭明神」をまつっていると記し、その由来として、暴雨のとき、この社の神殿に鮭が一尾あがったので、神にまつたとある。

現に今日まで、相模川をのぼる鮭を見たという人は少なくない。鮎漁をする、川漁師の人たちである。相模原市緑区大島にある神奈川県水産技術センター内水面試験場の場長である利波之徳さんとなきこれとくも、地元とこの古老ふるらに聞いている。私自身も、厚木の漁協の組合長であった鈴木勇さんから教わった。ただこれを、江戸時代の鮭の子孫の生き残りであると即断することは許されない。

それは、明治初年に、内務省勸業寮が、人工孵化した鮭の稚魚を、相模川や木曾川などに放流しているからである。明治二十二年まで続いた事業

の成果を、明治二十一年にまとめた陶山清猷の「相模川の鮭」(『平塚市史』第六巻所収)によると、河口の須賀村や柳島村から上流の津久井郡藤野村まで、それなりの鮭の成魚の漁獲があったようである。

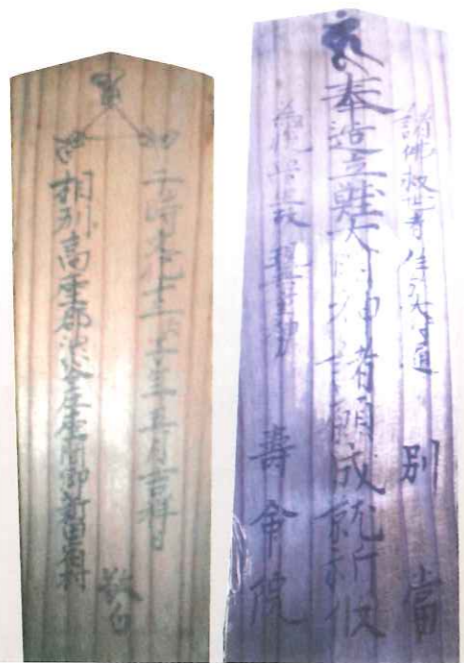
とりわけ津久井郡小倉村では、明治十九年に、相模川の支流の申川で、大きな鮭数尾がとれ、同二十年三月八日には数万の稚魚が発生游泳するのを認めたという。これは明らかに、当時、鮭が相模川水系に定着していた証拠にちがいないが、これもまた、ただ稚魚の移植の成果とみるわけにはいかない。古来、申川が鮭の産卵床であった可能性もある。

昨年十一月三十日に、「鮭明神」を検証に、座間市新田宿の諏訪明神社を尋ねてみた。宮司の新田寿明さんにたとしあきのご好意で、社殿の中にまつる小祠



諏訪大明神社の東脇の川の名残。左側の木立が境内。川幅は、もとはもつと広く、川岸は斜面になっていた。上方が上流。

を拝むことができた。小祠には周辺の村々の例と同じく、神体として木の神札を納める。小祠の一つに、「鮭大明神」と記した神札が二枚まつられていた。神札は、諏訪社に仕える修験の寿命院が書いている。現在の宮司の先祖にあたる。



「鮭大明神」の神札。表中央の文字は、「奉造立鮭大明神諸願成就祈攸」と記す。新しい神札は安政五年(一八五八)十二月再建のもの。右は表、左は裏。

古い神札の日付は、文化十三年(一八一六)五月である。「新編相模国風土記稿」より、四半世紀近くも古い。当時は、鮭が相模川をのぼり、諏訪社の東の流れにも来たたと伝える。昔は鮎漁だけではなく、鮭もとったという。村の人の話では、鮭大明神は、嵐の日に社殿の回廊で跳ねている鮭をまつったといい、鮭の豊漁祈願のためとす。江戸時代からの鮭の知識を、さらに確かめてみたいものである。(写真撮影 大貫邦重)

河川敷や丘陵に見られる植物

●長岡 恂／厚木植物会 会長

ヒシ (ミソハギ科)

西日本の湖沼やため池では普通に生育し珍しくないが、神奈川県 RD では絶滅危惧 IA 種となっている。相模川の中流域のワンドでも 2014 年夏から観察されるようになり、アサザとともに止水域にひろがっている。1 年草なので次の年には消滅するのではないかと当初は思ったが、年ごとに広がっていく様は外来種と同じだ。たぶん上流からの栽培逸出か人為的移入だろうが、競争種がないのと水環境が合ったようで、定着したようだ。果実は栄養価が高いので昔から食用にしていた。佐賀県では優良品種の栽培を奨励し、そのために補助金も出していた。果実が熟するころになると採る場所を入札によって決めていたそうだ。ヒシにも産地間差があって、“久保田菱”は大きくて甘いと評判（ふるさと植物誌 1999 佐賀新聞社）。最近ではホテイアオイの侵入で少なくなっているようだ。



カワラニガナ (キク科)

カワラと名前の付く河川敷植物は激減してしまっただ。カワラニガナは頭花で黄色の舌状花。ニガナそっくり。葉はニガナと大きく違い、河川の増水やはん濫で流されないよう対応したのか線状の披針形。学名に tamagawaensis (多摩川の) と入るので多摩川中流域の河川敷には多いのではと思ったが、ここでも希にしか見られない。相模川左岸の礫地には大群落を作っている場所がある。花は午前中に開花し午後には閉じてしまうといわれるが6月の撮影時、午後5時すぎでもパッチリ開花していた。何か異変を察知しているみたいで不安だった。この群落も最近クルマが入り、一部踏み跡群落と化し衰退している。外来種の天下と思っていた河原で、細々と頑張って生きる本来の住人を見つけることが出来た。この礫地がいつまでも安住の地であって欲しい。



流水のミズスマシ

●守屋 博文／神奈川昆虫談話会

○ミズスマシの現在

ミズスマシといえば、池や水溜りなどの止水域で、水面上をくるくる回る光景を思い浮かべる方が多いと思います。ところが、各地に点在していた池などが姿を消し、止水性のミズスマシの生息域が消滅したため、現在ではあまり目にすることができなくなりました。このことはゲンゴロウなど他の水生コウチュウにも言え、絶滅種や絶滅危惧種に指定されている種も数多くあります。しかし、今回紹介する流水を生息場所とするミズスマシは、桂川や相模川、そこに流れ込む支流が、川岸や周辺の変化はあるものの、現在でも健在であることから、各地で見ることができます。

○山地溪流のオナガミズスマシ

現在、桂川・相模川水系からは3種類の流水性ミズスマシが確認されています。オナガミズスマシは、山地溪流に生息する1種です。3種類の中では一番大きく、溪流の小さな落ち込みの緩やかな流れなどで、流下してくる昆虫や水面に落ちた昆虫などを待ち受け回りながら泳いでいます。幼虫、成虫ともに肉食で、夏の間は水の中で幼虫として生活し、秋には成虫が出現し、そのまま成虫で冬越しします。冬越しは川岸にたまった落ち葉の中や石の下などでじっと潜み、春になるとオスとメスが出会い産卵し、一生を終えます。



オナガミズスマシ幼虫

○平地流のミズスマシ2種

前種に対し、支流からの流れ出しや本流の伏流など、水質が良好な平地で見られるのが、ツマキレオナガミズスマシとコオナガミズスマシの2種です。生活史と生態は前種と同じですが、体長は小さく、大きさだけでもある程度区別することは可能です。両種は混生する場所もあり、おびただしい数が水面を動き回る光景を見ることもできます。しかし、数を比べるとコオナガミズスマシは少なく、神奈川県では絶滅危惧種として取り扱われています。止水性のミズスマシが危機に瀕している現在、今回紹介したミズスマシはいつまでも見られることを願っています。



コオナガミズスマシ



左からオナガ、ツマキレオナガ、コオナガ (スケール=10mm)



きれいな水は 上流から



水再生を天職として生涯を
●勝俣 藤久／市民部会

桂川の支流である柄杓流川の水を使った水力発電が始まりました。今回は、桂川・東部地域協議会に所属している西依三徳氏の岩をも貫く鉄より固い宿願であった小水力発電への、30年に及んで積み重ねた取組とその成果を皆様方に紹介し賞讃して行きたいと思っております。



小水力発電を行っている富士山電力株式会社の概要は次のとおりです。

商号 富士山電力株式会社
所在地 山梨県都留市夏狩 285 番地
電話 0554-20-3761
FAX 0554-20-3765
設立年 平成元年
資本金 1,000 万円
代表取締役 西依三徳

業務内容 電力業（発電小売）
電気設備設計、省電力、水力発電コンサルタント、高圧電気設備保安管理



夏狩水力発電所
発電量 130kw
平成 29 年 12 月に竣工、売電
株式会社和田発電社との共同事業
夏狩太陽光発電所
発電量 1,000kw
今春竣工予定
山陽エンジニアリングとの共同事業

富士山電力株式会社は富士五湖より流れる桂川、そして桂川・相模川流域協議会の名に由来します。

平成 29 年 12 月 27 日、夏狩小水力発電所の竣工式が執り行われました。



西依氏の平成元年からの宿願が達成されたのは、荒れ果てた土地の伐採、整地、県との交渉、搬入道路の地主との交渉など、二十九年間黙々と、何回となく県、市、地主、地域農業委員会との会合を行い、筆舌に尽くし難い堅固の努力が実を結んだものと賞讃するものであります。



スリットダム見学

●岡田 一慶／アジェンダ専門部会担当幹事



平成 29 年 10 月 4 日（水）、参加者 15 名で、山梨県大月市笹子町にある滝子川スリットダムを見学した。昨年、アジェンダ専門部会で山梨県砂防課の藤本さんに山梨県のスリット型砂防ダムのお話をいただいたが、今回は実際にスリットダムの現地で説明を受けた。

国の「砂防基本計画策定指針」が平成 28 年 4 月に大きく転換され、「土砂とともに流出する流木等を全て捕捉するためには、透過構造を有する施設を原則とする。」ことが決定された。

これによって、一気に砂防ダムのスリット化が推し進められることになる。さらに、平成 29 年 7 月の九州北部で発生した異常な豪雨による甚大な流木災害発生により、より強力な流木対策を推進すべきと国土交通省から通達された。

以前、神奈川県は最下流の人家近くの場所ではスリット型砂防ダムの整備に否定的であったが、今後は山梨県だけでなく、全国的により積極的にスリット型砂防ダムに取り組むことになりそうだ。

また、山梨県では修理が必要な古くなった砂防ダムはスリット型改修を検討しているとのことだった。私たちは溪流の連続性を確保し、生態系の保全の観点からスリット型砂防ダムを提案してきたが、災害を防止、軽減する観点からもスリット型砂防ダムが従来のクローズ型の砂防ダムより優れていることが認められ、国の方針になったことは、溪流環境の悪化に対する歯止めになることが期待できると思われる。



滝子川スリットダム 概要

- 流域面積 2.32km²
- 計画貯砂量 59,400m³
- 天端標高 636.4m
- スリットの長さ 20m
- 事業費 613 百万円

この計画貯砂量について、従来のクローズ型砂防ダムでは 2 基必要になるらしい。スリット型のコスト面での優位性も確認された。ただ、大きな土石流が発生して、スリットダムが満砂になれば除石等のメンテナンスが必要になる。

砂防課の藤本さんにはいろいろお世話になりました。ありがとうございました。



街の湧水保全へ調査と清掃作業実施 さむかわエコネット

タウンニュース寒川版 (No.865) 掲載の記事紹介



さむかわエコネットは、平成 25 年から寒川町環境課と一緒に「湧水調査」を実施している。今年度も 12 月に実施し、その調査結果がまとまった。※調査は環境省・湧水保全ポータルサイトの「湧水保全・復活ガイドライン」を参考に実施。

寒川町の把握した湧水地は 15 ヶ所。

湧水地点は半数以上が岡田地区の私有地で、一番西が寒川神社の難波の小池で、東が越の山東側の丘陵傾斜地。調査に当たった中門吉松さんは「私有地が多く、それぞれ調査にご協力いただき助かりました。」と話している。

今年度のまとめとしては、全体的に湧水量は前年に比べて減少傾向で、宮山緑地に溜り水はあるが湧水は確認できなかったという。

私有地の湧水については年度ごとの変化が多く見られるようだ。

さむかわエコネットは発足から 11 年。スローガンに「目久尻川に鮎が遡上し、カワセミが飛び交い、ホタルが舞う川にしよう」を掲げ、春には鮎が遡上し、年間を通してカワセミが飛び交う自然環境豊かな環境が戻ってきたという。ホタルの幼虫の放流も行い、2 年前から僅かだがホタルが舞う環境が戻ってきた。

ホタル復活とともに立ち上がった「湧水調査」。都市化の進行で湧水の減少や湧水地点のゴミの散乱などが見

られることから、試験的な清掃作業を行うことになった。2 月 8 日には JR 相模線大山踏切横の湧水地点で清掃作業を実施。

数日後には小鳥が水場に訪れる姿が目撃されるなどの効果も。今後も年に 2 回程度の清掃活動を予定。



入会のご案内

あなたのその力が豊かな水環境を創ります。
当協議会では、さまざまな活動を通じて、水環境の保全・再生に努めています。
桂川・相模川流域協議会に興味を持たれた方は、是非入会して下さい。入会手続きは、下記事務局へ問い合わせして下さい。

第 38 号「流域紀行」に誤りがありましたので、以下の通り訂正いたします。(誤) 初島 → (正) 大島

編集後記

この冬は異常な寒気に日本中が翻弄され、自然の脅威を痛感するとともに、流域協議会の活動を通して森林や水環境等自然への思いを改めていただいた 1 年でした。

今号は 20 年の歩みの年表掲載の特集号で盛り沢山となりました。来年度は 20 年間の活動を精査し、シンポジウム等で共有した様々な情報を活かした実践活動と、次世代にこの活動をどう繋げていくかが課題となることでしょう。(K.S)

表紙写真／母の白滝 撮影場所：富士河口湖町

本紙に対するご意見・ご感想を下記事務局までお寄せ下さい。

あじえんだ 113 No.40 (2018.3 発行)

発行 桂川・相模川流域協議会
編集 あじえんだ 113 編集委員会

桂川・相模川流域協議会ホームページアドレス <http://katurasagami.net/>

事務局 山梨県富士・東部林務環境事務所 〒402-0054 都留市田原 3 丁目 3-3 TEL.0554-45-7811 FAX.0554-45-7807
神奈川県環境農政局緑政部水源環境保全課 〒231-8588 横浜市中区日本大通 1 TEL.045-210-4358 FAX.045-210-8855



■やまなし森の印刷紙
この印刷紙には、FSC®
森林管理認証を取得した
山梨県有林からの木材が
使用されています。



ユニバーサルデザイン (UD) の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。